



▲ みのかもきらきらエコハウス(旧日本ラインシュロス駐車場)での資源回収

「ごみゼロへ 出さない工夫と 生かす知恵」

平成20年度 美濃加茂市まちを美しくする運動
環境美化啓発標語最優秀賞 佐藤健正さんの標語

6月は環境月間です。今、わたしたちは、排出してきた大量のごみを前に、行動の選択を迫られています。循環型社会を目指し、ごみを減らすためには何をすればよいのか、この機会にもう一度考えてみましょう。

平成20年度もワースト1

「9、423トン」この数字は平成20年度の一年間で、わたしたちが「可燃ごみ収集袋」で出している市全体の可燃ごみの総重量です。下段のグラフ(市の生活系可燃ごみの排出量)のように毎年増え続けていたごみの排出量は、皆さんのご協力により、平成18年度の9、480トンをピークに、平成19年度は前年より48トンの減少、平成20年度は前年より9トンと少しづつ減少しています。

また一日一人当たりの排出量も平成19年度は、前年より10グラム減少し、平成20年度も前年より6グラムと着実に減少しています。しかし、可茂地区の他市町村と比較すると、平成19年度と同様、平成20年度も469グラムと一番多くごみを排出しており、美濃加茂市は3年続けて

「ワースト1」になっています。

これを可茂地区一日一人当たりの排出量の平均値である424グラムと比較すると、45グラム多く、一年間に換算すると一人当たり16・4キログラムも多いことになります。

これらのごみは、可茂地区10市町村で運営する「ささゆりクリーンパーク」で焼却処理されており、処理代はごみの割合に応じて各市町村が負担することになります。美濃加茂市は、ごみの排出量が可茂地区で一番多いため、他の市町村よりも負担金が多く必要になります。

皆さんが一袋30円で購入し、日常生活で出している可燃ごみ一袋にかかる処理費用を、平成20年度のごみの排出状況で計算すると、一袋(6キロ)当たり397円もかかる計算になります。袋代を除く残りの367円は市の負担となり、可燃ごみを

はじめ、市全体のごみ処理費用は、年間約8億9千万円(平成20年度)にも達し、市の財政を圧迫しています。

市の生活系可燃ごみの排出量

